

2026 年 10 月 1 日

ダイナミックマッププラットフォーム株式会社

ダイナミックマッププラットフォーム、「dSPACE Japan User Conference 2026」にて 実世界データを活用した自動運転 AI 開発に向けたデジタルツイン活用を紹介

ダイナミックマッププラットフォーム株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO:吉村 修一、以下「当社」)は、2026 年 9 月 17 日に開催された dSPACE Japan User Conference 2026(JUC 2026)において、「実世界を起点とした自動運転 AI 開発 ～AURELION×HD マップ×3DGS データによるデジタルツイン活用～」をテーマに講演を行いました。

本イベントは、dSPACE Japan 株式会社が主催するユーザーカンファレンスであり、自動運転や SDV(Software Defined Vehicle)、電動化などをテーマに、自動車メーカーや関連企業による講演・展示が行われました。



JUC 2026 で講演する当社ソフトウェア技術部 部長 間下健介

近年、自動運転や先進運転支援システム(ADAS)の開発では、AI の学習・評価精度向上と、実環境との乖離である「Sim-to-Real ギャップ」の低減が大きな課題となっています。また、実車走行のみで多様な走行シーンや希少事象を収集・検証することには時間やコストの面で限界があります。2026 年 6 月には、国連の自動車基準調和世界フォーラム(WP.29)において自動運転システムに関する国際規則が採択され、安全性の立証にシミュレーションによる仮想試験を組み合わせる枠組みが示されるなど、信頼性の高いデジタル検証環境へのニーズがグローバルで高まっています。

こうした課題に対し、当社は世界 26 カ国、約 180 万 km の高精度 3 次元データを基盤に、実世界を再現したデジタルツイン環境の構築に取り組んでいます。講演では、その取り組みの一つとして当社が推進する「Simulation-ready World」を紹介しました。

Simulation-ready World とは、実世界を起点とした AI 学習・評価環境の実現を目指すデジタルツイン構想です。高精度 3 次元データやカメラ画像データ等をもとに実際の道路環境をデジタル空間上に再現し、シミュレーション技術により走行ルートや交通状況などの条件を変更しながら多様なシナリオを生成します。実世界に忠実なデジタル空間で AI の学習から評価までを完結できる環境を提供することで、E2E モデルをはじめとする自動運転 AI の開発サイクル短縮や、安全性検証(Validation)の効率化に貢献することを目指しています。

この要素の一つとして、自動運转向けに整備している高精度 3 次元地図データ、LiDAR 点群データおよびカメラ画像データを活用し、3D Gaussian Splatting(3DGS)によるフォトリアルな 3 次元環境の構築を進めています。講演では実在道路を再現した 3DGS モデルを紹介しました。



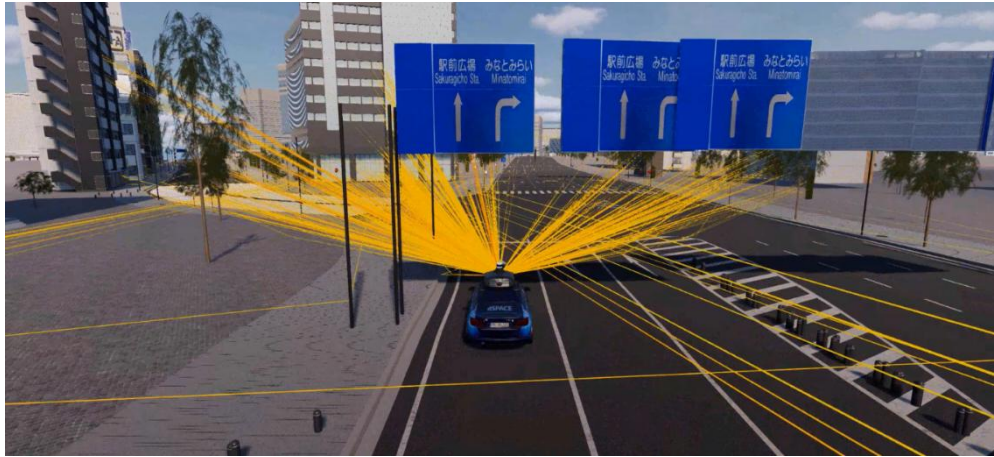
カメラ画像データや高精度 3 次元データを活用して生成した 3DGS 環境



自車搭載カメラ視点の再現と対向車シナリオ追加の例

その活用事例として、当社の高精度 3 次元地図データおよび 3DGS モデルと dSPACE のシミュレーションソフトウェア「AURELION」を組み合わせた取り組みも紹介しました。実在道路に基づくシミュレーション環境を効率的に構築でき、ゼロからシーンを作成する場合と比べて工数を削減しながら、「Sim-to-Real ギャップ」の低減および仮想試験の信頼性向上に貢献します。

今後は交通参加者のシナリオデータなども組み合わせ、より多様なシナリオ生成を可能とする環境の構築を進めてまいります。



dSPACE「AURELION」との活用イメージ

当社は、引き続き高精度3次元データの整備・運用で培った知見を活かし、AI向けデータ提供事業「Data for AI」を通じて国内外の自動車メーカーや開発パートナーのAI開発・検証を支援するとともに、自動運転分野をはじめとするフィジカルAIの社会実装を支える空間情報基盤の構築を推進してまいります。

<「dSPACE Japan User Conference 2026 (JUC2026)」概要>

日時 2026年9月17日(木)10:00～17:30 (当社登壇は15:30～)

会場 TAKANAWA GATEWAY Convention Center

公式ページ https://www.dspace.com/ja/jpn/home/company/events/dspace_events/dspace-japan-userconference-26.cfm

<ダイナミックマッププラットフォーム株式会社について>

当社は日本政府によるバックアップのもと、国内自動車メーカー10社等の出資により設立されました。日本をヘッドクォーターに、北米・欧州・中東・韓国に拠点を構え、現在26ヶ国で事業を展開。自動運転や先進運転支援システム(ADAS)をはじめ、シミュレータ環境構築、インフラ管理、除雪支援など、幅広い用途に向けて高精度3次元データを提供しています。

「Modeling the Earth」＝地球のデジタル化をビジョンに、高精度3次元データのプラットフォームとして、様々な産業分野におけるイノベーションを共創します。

設立: 2016年6月

本社: 東京都渋谷区

代表者: 吉村 修一

事業内容: 自動運転・ADASをはじめ多様な産業を対象とした高精度3次元データの提供

公式サイト: <https://www.dynamic-maps.co.jp/>

公式 X: https://x.com/dynamic_maps